

かかわりの中で育む心

今号の表紙 広島県 広島市立古田中学校



地元中学生と広島を訪れた外国人と平和へのメッセージを交換する「平和のメッセージ交換事業」に参加。折り鶴の再生紙で作られたカードには、英語で思いを書く生徒も大勢いた。

ESD（持続可能な開発のための教育）を推進する同校では、1年生は「広島の平和」、2年生は「日本の平和」、3年生は「世界の平和」をテーマに探究学習を行う。2年生の修学旅行では長崎を訪問。班別行動では、事前学習をした上で平和に関する場所を巡り、班ごとに調べたことをまとめ、全校集会で報告する。



体育大会では、色群で競技種目も行い、総合順位を決める。上級生が競技や応援で頼もしくリードする姿に下級生は憧れを抱き、上級生としてあるべき姿を学んでいく。



生徒会では、学校近くにある森になぞらえ、「古田の森」を合言葉に活動を展開。一人ひとりが成長し、それが集まってしっかりした森を築くことを目指す。その決意を表すため、1・2年生は自分の目標を、3年生は後輩に伝えたいことを書き、それを集めて1つのモチーフを形づくる。

生徒の行動目標に「時を守り、場を清め、礼を正す」を掲げ、あいさつ運動などを行う。無言清掃では、持ち場としっかり向き合い、学びの場を磨き上げていく。

1学年6～7学級からなる大規模校の広島市立古田中学校では、「気づく・考える・やり抜く・思いやる」をキーワードに、人と人との関係づくりを大切に教育活動を展開している。宮正千鶴雄校長は、そのねらいを次のように語る。

「本校では4つの小学校から新入生を迎えます。多様な経験や価値観を持つ生徒たちが、協力し合い、切磋琢磨しながら目標を達成し、3年間で大きく成長することを目指しています。そうした経験を通じて、生徒の自己肯定感が高まることを期待しています」

授業では、個別学習とグループ学習を織り交ぜながら自分の考えを深めていく「古田モデル」を全教科で実践。生徒同士のかかわり合いの中で気づく学びを重視し、教員はそれを導くファシリテーター役に徹する。

学校行事もその多くを3学年縦割りの色群で行い、学年

を超えた関係を深める。例えば、文化祭でのクラス合唱に向け、3学年縦割りの色群で交流する。上級生の美しい歌声は、下級生の目標になり、自身が上級生になった時、進んで下級生の教室に行き、アドバイスをするようになる。

また、平和をテーマに3年間かけて系統的に学習を深める「総合的な学習の時間」では、3年次に「世界の平和」をテーマに探究学習を実施。調べ学習とともに、広島平和記念公園を訪れた外国人に平和についての聞き取り調査などを行い、グローバルな視点で考えを深めていく。

「1年生から戦争や平和と向き合うことで、3年生の探究学習の発表では、平和を築く一員として自分たちにできることを、自分の言葉でしっかり述べています」（宮正校長）

仲間、教員、地域、そして世界の人たちとのかかわりが、生徒に豊かな心を育み、将来への飛躍へとつながっていく。